

投資環境の見通し（2026年7月）

国内株式

株価上昇要因

堅調な企業業績
世界的なインフレ鎮静化

株価下落要因

企業業績の悪化
長期金利の上昇

もみ合い

(円)

日経平均株価



1か月の予想レンジ 日経平均株価：62,000円～75,000円

国内株式市場は、米国とイランの緊張緩和を受けて原油価格が落ち着きを見せていることから、エネルギー価格の高騰を嫌気して出遅れていた主要製造業や内需関連銘柄などへの資金流入が期待されます。一方、高い成長期待を背景に急速に上昇してきたA I（人工知能）や半導体関連銘柄については、2026年4-6月期決算の内容や長期金利の動向次第では利益確定売りが出やすく、注意が必要と考えられます。

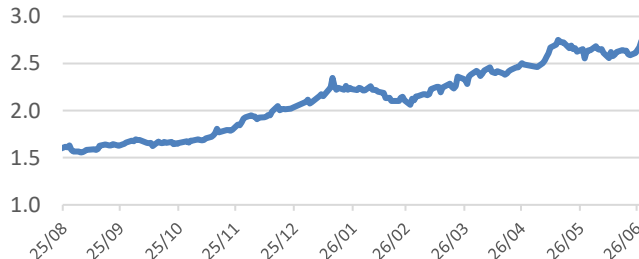
国内金利

金利上昇要因
(債券価格低下要因)国内インフレ圧力の高まり
日本の財政悪化懸念金利低下要因
(債券価格上昇要因)世界経済の減速
日本経済の悪化

もみ合い

(%)

10年国債利回り



1か月の予想レンジ 日本10年国債利回り：2.5%～2.9%

国内長期金利は、原油価格の下落を受けた過度なインフレ懸念の後退が金利低下要因となる一方、政府の成長戦略の着手にともなう財政悪化懸念の高まりが金利上昇要因として意識されると思われ、政府・日銀の財政・金融政策姿勢をにらみながら、2%台後半でもみ合う展開が予想されます。

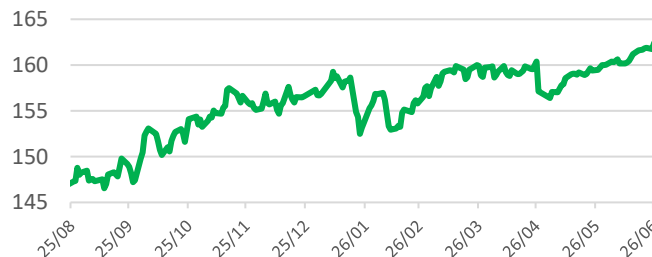
米ドル/円

米ドル上昇要因
(円安要因)米景気好調維持
米利上げ観測の高まり米ドル下落要因
(円高要因)為替介入（円買い・ドル売り）
米利上げ観測の後退

もみ合い

(米ドル/円)

米ドル/円 相場



1か月の予想レンジ 米ドル/円：155円～165円

米ドル/円は、日本の貿易収支や財政悪化懸念から約39年ぶりの円安水準となりましたが、更に円安が進行すれば政府・日銀による為替介入が想定されます。米国の金融政策は雇用・物価動向の影響を受け、指標次第では市場の金利織り込みが急変するため、金融当局の動きや経済指標を慎重に見極める展開が予想されます。

※ 上記矢印は相場の方向性を示しています。

出所：QUICKのデータをもとに中銀アセットマネジメント作成

【本資料のご利用にあたっての注意事項等】

■当資料は、投資環境に関する情報提供のみを目的として、中銀アセットマネジメント株式会社（以下、「当社」という。）が作成したものであり、特定の有価証券への投資を勧誘・推奨するものではありません。また、当社が設定・運用する各ファンドの投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。■当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に掲載しているグラフ、データ等は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。■当資料に示す意見等は作成日現在のものであり、将来の市場環境の変動または運用成果を保証するものではなく、将来予告なしに変更する場合があります。■当社は当資料に含まれる情報から生じるいかなる責務（直接的、間接的を問わず）を負うものではありません。■当資料に記載されているベンチマークインデックスの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

中銀アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 中国財務局（金商）第10号
加入協会 一般社団法人資産運用業協会